

令和元年度（2019年度） 第1回 八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会	
日時・会場	令和元年（2019年）7月12日（金）10:00～11:50 第5委員会室
出席者	委員 黒岩亮子（日本女子大学） 小室崇司（八王子市町会自治会連合会） 添田繁實（市民委員） 堤直樹（八王子市民活動協議会） 豊田聡（八王子市社会福祉協議会） 山下晋矢（八王子市医師会） 山本英雄（八王子市民生委員児童委員協議会） 和田清美（首都大学東京）
	市職員 石黒福祉部長 山崎生活福祉担当部長 井上福祉政策課長 立川高齢者いきいき課長 半田主査（高齢者福祉課） 小池障害者福祉課長 一杉生活自立支援課長 米村生活福祉総務課長 市川地域医療政策課長 澤田子どものしあわせ課長 叶協働推進課長
	説明員 社会福祉法人 八王子市社会福祉協議会 井出地域福祉推進拠点担当課長
欠席委員	篠原由紀子（市民委員）
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 議 題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第3期八王子市地域福祉計画の平成30年度（2018年度）実績報告について 3. 報 告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「八王子市包括的な地域福祉ネットワーク会議」について (2) 「地域福祉推進拠点」の整備状況について（八王子市社会福祉協議会） 4. 閉 会
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 【資料1】 第3期八王子市地域福祉計画・平成30年度（2018年度）実績報告 【資料2】 「八王子市包括的な地域福祉ネットワーク会議」設置要綱 【資料3】 「八王子市包括的な地域福祉ネットワーク会議」出席者名簿 【資料4】 「地域福祉推進拠点」の整備状況について <p>平成30年度CSW（コミュニティソーシャルワーカー）第2層生活支援コーディネーター活動報告書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見書

会議の要旨

1. 開 会

新委員の任命

八王子市社会福祉協議会の山崎光嘉委員が退任し、新たに豊田聡常務理事兼事務局長が委員となった。

市職員異動の報告

小峰福祉部長 ⇒ 石黒福祉部長

小澤生活福祉担当部長 ⇒ 山崎生活福祉担当部長

田島健康政策課長 ⇒ 武井健康政策課長

2. 議 題

(1) 第3期八王子市地域福祉計画の平成30年度(2018年度)実績報告【資料1】2頁～「1 地域福祉を推進するしくみの充実」について事務局より説明。

和田会長
山下委員

ここまでで、御意見や御質問はありますでしょうか。

ネットワーク会議の出席者ですが、今、高齢者が増え、基礎疾患のある方や介護が必要な方等が多くいることを踏まえて、例えば、八王子市医師会長や福祉施設、訪問看護ステーションの方等もメンバーとして、総合的なネットワークのようなものを構築できるとなお望ましいと思います。

井上課長

出席者については、要綱の第4条2項でこのメンバー以外にも必要に応じて会議への出席を求めることができますとなっていますので、テーマによっては他のメンバーの招集も考えていきたいと思っています。CSWが地域から収集した課題が医療に関するものであれば、医療関係者や施設関係者の方にもご協力いただいて解決策を見出していく流れにしたいと思っています。

山下委員

まず始めることが大切なので、これで始めていただければと思いますが、先ほどお話したように、今やはり認知症や介護等複合的な問題をお持ちの方が大部分なので、初めからそういう人に参加していただければと思います。

小室委員

【資料1】8頁に総合的な福祉研修の延べ参加者数が29人とありますが、分母はどれくらいでしょうか。また、スキルマップのような誰がどのようなスキルを持てるようになったのかを把握できないと、延べ29人という人数だけではどういうことが求められているかわからないのではないかと思います。

井上課長

正確な数字は手元にありませんが、福祉分野に携わる職員が300人程おり、その内の29人なので、1割程の参加人数であったと考えております。また、研修は基礎から実践まで段階を追って受けることがスキルの向上に繋がると思っていますので、今のご意見も含めて工夫していきたいと考えています。

小室委員

やはり個人ごとのスキルマップは作るべきだと思います。

添田委員

参考までに、職員300人の中で、介護福祉士が何名で社会福祉主事が何名

井上課長 豊田委員	<p>いるかわかれば教えてください。そうするとその職員研修の中で、充実しているか不足しているかということが見えてくるかと思います。</p> <p>今、手元に資料はありませんので、改めて情報提供させていただきます。</p> <p>福祉の職員が300人とのことですが、子ども家庭部も含めると恐らく600人くらいいると思います。</p>
井上課長 添田委員	<p>保育園も含めるとそのくらいですね。</p> <p>600人の中で、専門的な国家資格や民間制度資格を持っている人がわかると、相対的に必要とするものが見えてくるような気がします。足りない部分は今後積極的に補充して対応していくことが一つかと思います。</p>
黒岩委員	<p>今、児童虐待等の問題においても、地域の人が専門機関に繋いで来ても十分な対応ができないという問題があります。市の方針として、福祉の資格を持っている人は専門性を高められる部署を回るというあり方がないと住民からも不満が出ます。市として何か検討していることがあれば教えてください。</p>
井上課長	<p>人事異動の基本的な考え方としては、入所したばかりの職員は2～3年で他の部署に行き、幅広く市の業務を身に付けるという方針を定めております。いわゆるスペシャリストの養成については、まだ明確ではありません。スペシャリストの養成も見据えた中で、福祉部では判断していく必要があると思います。</p>
堤委員	<p>この研修のレジュメ等をこの委員に見せてもらうことは可能でしょうか。</p>
井上課長	<p>こちらは職員の研修でもありますが、主に大学生が社会福祉士を目指すための実習として参加しているものです。資料を分科会で提示することは問題ありませんので、よろしければ次回の分科会で提供させていただきます。</p>
黒岩委員	<p>八王子市では社会福祉士の実習も受け入れ、さらに指導者も育成する中で専門性を高めるということが方針としてあるという理解でよろしいでしょうか。</p>
井上課長	<p>八王子市では、社会福祉士の実習生を4～5つの大学から受け入れておりますが、実習生を受け入れる前提として指導者の資格がある職員が必要なので、指導者の育成についても取り組んでいます。これは特に八王子市だからということではなく、福祉分野として数年前から取り組んでおります。</p>
黒岩委員	<p>そこで少し専門性を担保しようと考えているということでしょうか。</p>
井上課長	<p>そうです。その社会福祉士向けの研修に市の職員も参加して、職員のスキルアップも同時に図っていくという形になります。</p>
黒岩委員	<p>それがあることによって、他の職員にとってもいいだろうということですね。</p>
井上課長	<p>そうです。</p>
黒岩委員	<p>【資料1】10頁の所で、令和2年度の目標を750件と定めておりますが、今回1280件あったので今後の目標はどうなるのでしょうか。</p>
井上課長	<p>こちらは、計画作成時に新規の取組みで、実績が集まっていない中で見込みとして他のフェイスブックのリアクション数等を参考に750件という目標を定めました。既に目標を超えているので、令和2年度の計画中間見直しの際にこの指標の値についても見直す必要があると考えています。</p>
豊田委員	<p>SNSの活用とありますが、子ども家庭部の方だと恐らく「すくすくはちおう</p>

<p>澤田課長 豊田委員 小池課長 立川課長 豊田委員 井上課長 和田会長</p>	<p>じ」のほかにひとり親の関係も情報発信はしていましたよね。 子育て支援課の方でひとり親家庭に対してメールの発信はしています。 高齢者と障害者の方はSNSで情報発信していますか。 特にありません。 SNSは使用しておりませんが、昨年度に地域包括ケア情報サイトをオープンし、ここで包括的に情報発信ができる仕組みは整えているという状況です。 自己評価の中で「すくすくはちおうじ」だけになっておりますが、違う情報発信も行ったということも言った方が良かったかなという気はします。 計画の見直しの際にそれも含めて再考してみたいと思います。 せっかくやっていることなら記載していった方が良いと思います。</p>
	<p>【資料1】11頁～「2 地域福祉活動支援・人材育成」について事務局より説明</p>
<p>和田会長 山本委員</p>	<p>ここまでで、御意見や御質問はありますでしょうか。 【資料1】12頁の民生委員の関係ですが、行政側の活動支援としてはこういったPR活動が中心でした。個人的な意見ですが、民生委員の行政との連絡方法として今は電話が主ですが、メールで連絡できる体制を作っていただければと思います。特に民生委員のなり手不足という問題を抱える中で、現役の委員を発掘する場合、最も良い連絡手段はメールを使用することだと思います。一度相談をした際は、各自にスマートホンを持たせるのは予算の関係で却下ということでしたが、意見として頭に入れておいていただけると助かります。</p>
<p>井上課長 豊田委員</p>	<p>時代も変わり、有効な連絡手段も様々ありますので、今後民生委員の方々の意向を確認しながら、対応できるものは対応していきたいと思います。 民生委員の情報発信を平成30年度に3回行ったとのことですが、ホームページと広報の内訳を教えてください。</p>
<p>井上課長 山本委員</p>	<p>ホームページと広報に同じ情報を3回ずつ掲載しており、累計でいうと6回になります。 【資料1】16頁のお父さんお帰りなさいパーティー（以下「オトパ」）について、開催回数が2回でイベント参加者数が420名ということですが、その中からボランティア活動に行った人数は把握しているのでしょうか。</p>
<p>叶課長 堤委員</p>	<p>オトパの趣旨としては、まずここで市民活動に関心を持っていただき、各地域や団体等に入って活動の輪を広げてもらうことが目的ですが、今の所これをきっかけに何人がどのグループに参加したかは把握しておりません。今後の課題かと考えております。 従来の流れで言うとボランティアは社協のボランティアセンター、純粋な地域活動は町自連、市民活動協議会や市民活動センターはNPO等の市民活動に関わりますが、徐々に各々が協力し合う流れができています。オトパは必ずしもボランティアに対するガイダンスだけではなく、50歳以降のリタ</p>

<p>黒岩委員</p> <p>井出課長</p>	<p>イア前後の方々に地域での活躍の場を持たせたいというものだと思っています。今後なお一層皆さんの力を合わせていければと思います。</p> <p>ボランティアは民生委員や町内会等の人が行っているのかなと想像しますが、実際はどういう方なのでしょう。また、志民塾やオトパ等をどう地域福祉推進拠点に結びつけていくかという考えがあれば教えてください。</p>
<p>黒岩委員</p> <p>井出課長</p>	<p>地域福祉推進拠点では、地域の方の活躍の場の提供と地域の方が自主的に運営をすることをサポートしております。ボランティアは、地域住民の有志の方々が中心となっており、その中には民生委員もおりますが、多くは一般の地域住民で構成されております。また、オトパ等、そのほかの担い手の発掘についても、社協として参加し地域で活動の輪を広げて行けるように努めております。</p>
<p>黒岩委員</p> <p>井出課長</p>	<p>地域福祉推進拠点の活動の場は地域の方たちが中心で、志民塾やオトパはより広くという二本立てで考えているということによろしいでしょうか。</p> <p>そうです。</p>
<p>添田委員</p> <p>叶課長</p>	<p>オトパと志民塾で学んだ人たちが、どういう団体に活動しているか等把握しきれていないのが現状だと思いますが、どうお考えでしょうか。</p> <p>志民塾はこれまで10期いる中で、概ね20～30人の方が毎回卒塾をされております。その後を調査しますと、これをきっかけに地元の町会自治会活動に入って町会長になった方や、どこかまで特定できませんが市民活動団体に入った方等おり、そういった方の分類はしております。今回資料はお持ちしておりませんでしたので、別の機会を通じて皆さんにご報告できればと思います。</p>
<p>小室委員</p> <p>井上課長</p>	<p>【資料2】15頁の学校等における車いす等体験学習の実施回数ですが、改善の所に「学校側の協力を得て」とありますが、教育委員会等と打ち合わせ等はしているのでしょうか。学校運営協議会では、この6年間聞いたことがないです。どういう期間でどう動いているのかをお聞かせください。</p> <p>校長会の中で事業のPRをし、学校からの手上げ方式ということで行っているようですが、学校も様々なカリキュラムがある中で、この車いす体験をやる時間の確保というのなかなか難しいようです。</p>
<p>小室委員</p> <p>井上課長</p> <p>小室委員</p> <p>添田委員</p>	<p>最低でも年1回はPRしていたのでしょうか。</p> <p>広報にも掲載しております。</p> <p>学校長の方に確認してみます。</p> <p>この件ですが、東京都教育委員会の方から、高校での車いす体験を私のいるNPOの所属団体で受け、拓真高校の全校生徒を対象に5年間務めました。人材不足でやめてしまいましたが、東京都教育委員会では、都立高校には車いすの体験学習を奨励しておりますので、NPO団体でやりたいのであれば社協と連携を取って行うのは非常に有効だと思います。</p>
<p>井出課長</p>	<p>この事業自体は、以前から福祉教育の一環で主に社協が各地域で行っている事業です。車いすの他にも福祉講話や高齢者疑似体験等を行っており、少し減っていますが昨年度は、延べ件数として小学校は34校、中学校は12校に出前講座として職員が学校で福祉教育を行っています。</p>

添田委員	【資料1】19頁のういずサービスについて、今後介護保険制度の中の日常生活支援総合事業としっかり連携をとっていく必要があると思いますが、どうお考えになっているかお聞かせください。
井上課長	ういずサービスは高齢者に限定せず若い方でも利用できる制度になっていますが、日常生活総合支援事業との住み分けや連携については意識していく必要があると思います。
山本委員	【資料1】18頁のファミリーサポートセンターの活用で、年間活動数4277回ということですが、この数字は多いのでしょうか。
澤田課長	ファミリーサポートセンターの活用については、提供会員が若干少なくなってきたという事は聞いております。
井上課長	件数で言いますと、27年度が5545回、28年度が5525回、29年度が4649回ということで、提供会員が少なくなってきた中で、活動回数も徐々に減ってきているのが現状のようです。
山本委員	需要はあるけれども、現実として提供会員が少なくなっているため、活動回数が減っているということですね。
井上課長	それも一因としてあると思いますし、ファミリーサポートと同じような支援を民間のNPO等も一部始めていますので、そういった影響もあると思います。
山本委員	保育園が増えると待機児童はなくなりますが、子どもが熱を出した時等に送り迎えができない場合、ファミリーサポートセンターの需要が増えるはずですが。NPOがやっているからとのことですが、その数を把握していないのは問題だと思います。保育園は自分の住んでいる場所と関係なく振り分けていくので、迎えに行けなければ当然やめるしかありません。やはりもう少しファミリーサポートセンターの充実を図ることを考えた方がいいと思います。基本的に全てをボランティアでやろうということ自体がかなり問題だと思います。
黒岩委員	確認ですが、先ほどのういずサービスの利用会員自体は高齢化に伴って増えているという理解でよろしいでしょうか。
井上課長	利用会員でいうと29年度が285人、30年度が270人なので利用会員も減っています。
井出課長	多少の年度の上下もありますが、この分野は介護保険制度が影響する部分もあります。30年度はそれほど大きな変更はありませんでしたが、やはり協力会員が減っており、どこの業界も人材不足だと思います。
豊田委員	【資料1】23頁の見守り活動については、改善の所で「福祉部間だけでなく、産業の分野などとも連携」とありますが、25頁の防犯活動に関しては協働推進課との連携はあるのでしょうか。あるなら記載した方が良いと思います。
井上課長	【資料1】23頁の見守りについては、事業者と繋がりのある産業分野との連携を図っていくという改善策にしております。25頁の地域支援組織については、3年ほど前に町会自治会にアンケートを取ったことがあり、こういった地域支援組織に近いような組織は出来ているというお話はありました。アンケートを取る際には、協働推進課とも連携しておりますし、既に町会自治会には

小室委員	<p>自主防災組織が組織されている所が多いと思いますので、その地域支援組織と自主防災組織の連携が必要ではないかといった意図で記載しております。そのため、その前提となる所管の協働推進課との連携は当然行っております。</p> <p>町自連は毎年一度、防災・防犯をメインとした研修会を開いています。また、例として、宝生寺団地での活動で、要介護者・要支援者、逆に支援する人間を2000人以上すべて調査して、そのリストを基に防災訓練を行っていました。長房でも孤独死防止対策から始まったいい取り組みをしています。協働推進課にもご協力いただいているので報告させていただきました。</p>
山下委員	<p>【資料1】24頁の災害ボランティアリーダーの養成という所に、「市の総合防災訓練では災害ボランティアセンターを立ち上げ訓練等を社会福祉協議会と市が合同で行うことで、災害時の円滑な対応を整えます。」と記載がありますが、医師会としては、災害時にまず特に重傷な方たち、次に救護所や支援所、その後、精神疾患やリハビリ等、段階的に引き継いでいくような形になります。なるべくこういう仕組みの中で連携や情報共有できた方がいいと思います。</p>
井上課長	<p>本日、医療保険部の職員も来ておりますので、医療支援との連携については社会福祉協議会の方とも調整して進めていきたいと思っています。</p> <p>【資料1】26頁～「3 福祉サービスの充実」について事務局より説明</p>
和田会長 山下委員	<p>ここまでで、御意見や御質問はありますか。</p> <p>【資料1】27頁の障害者と家庭への支援の所ですが、高齢者の場合はケアプランを作成し、介護サービスの振り分けや事業を行っています。障害者の方も、支援計画を作ってサービスの内容や医療支援の時間数を割り振りすべきですが、決められた単位数しか出さず融通が利かないと聞きます。計画を作るのであれば、個別に基づいた柔軟な対応ができるようご検討いただきたいです。</p>
小池課長	<p>私たちの担当の方でも他の福祉サービスと合わせてどういうサービスに繋がられるかを協議会にかけ、その中で対応をしております。ただ現実には人により個別の状態がありますので、もう少しそこを見極めてサービスに繋げるようにしていきたいと思っています。</p>
和田委員	<p>【資料1】35頁の権利擁護の推進の施策についての改善の所で、町会自治会が突然出てくる印象があるのですが。</p>
井上課長	<p>市民後見人の登録については、広報等で募集をしていますが、担い手を見つけるのが難しいため、町会自治会にもPRし、連携を図っていきたいという意図で記載したものでございます。</p>
和田会長	<p>地域福祉計画の平成30年度の実績報告については以上ですが、今回いただいた様々な意見についてはどのように対応しますか。</p>
井上課長	<p>宿題もいただいておりますので、改めて事務局で整理した上で、どういう形で委員の皆さんにお知らせするかは、正副会長の方と調整させていただきます。</p>
和田会長	<p>では、そのような形でよろしいでしょうか。</p>

<p>和田会長 添田委員 井上課長 添田委員 井上課長 添田委員 井上課長 添田委員 山下委員 井上課長 和田会長</p>	<p>⇒全委員了承</p> <p>3. 報告 (1)「八王子市包括的な地域福祉ネットワーク会議」について 事務局より【資料2】【資料3】に沿って説明</p> <p>こちらについて、御意見や御質問はありますでしょうか。</p> <p>以前にも、山下委員が外部の委員も入れてほしいということを提案したことがあります。今後は庁内だけでなく外部の委員も入れて検討していくことで解釈してよろしいのでしょうか。</p> <p>今は高齢者あんしん相談センターや、障害者生活支援拠点の代表にも入っていただいて支援者側のネットワークを作っているところです。医療関係者等は必要に応じてご協力をお願いしたいと思っています。地域におけるネットワークの方は、CSWがネットワークづくりを進めています。</p> <p>市民にとってはわかりにくい気がします。</p> <p>地域のネットワークの中で課題があったものをCSWが拾い、この包括的な地域福祉ネットワーク会議の中で議論するというようなつくりです。</p> <p>これも議事録は公開していただけるということでしょうか。</p> <p>個人情報に留意してなるべく公表していくようにいたします。</p> <p>わかりました。ありがとうございました。</p> <p>今後の運用として、例えば、地域福祉ネットワークを災害時の防災対策等にも利用していただきたいと思います。色々な職種が入っておりますので、防災対策としてのツールや連絡等に発展して行けるのではと考えています。</p> <p>既に地域と繋がっているネットワークが庁内に多数あります。既存のネットワークは、新たな課題や防災関係についても活用したいと考えております。</p> <p>緊急性がある課題もあるかと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p>
<p>和田会長 山下委員</p>	<p>3. 報告 (2)「地域福祉推進拠点」の整備状況について 事務局及び八王子市社会福祉協議会井出地域福祉推進拠点担当課長より【資料4】、「平成30年度CSW（コミュニティソーシャルワーカー）第2層生活支援コーディネーター活動報告書」に沿って説明</p> <p>こちらについて、御意見や御質問はありますでしょうか。</p> <p>「平成30年度CSW（コミュニティソーシャルワーカー）第2層生活支援コーディネーター活動報告書」6頁の市の現状の所で、市全体の社会福祉法人の事業者数が記載されていますが、これが地域の利用者の需要を満たしているのか、他圏域から多く流入している実態があるのか等によって今後の市の福祉の方向性も変わると思います。事業所の中の利用者の状況も、どの圏域からど</p>

井上課長	<p>んな利用者が流れているか等実態がわかれば教えていただきたいです。</p> <p>具体的にどういう状況かということはこの場でお答えできませんので、事務局の方で可能な範囲で実態を調べさせていただきます。</p> <p>4. 閉 会</p>
議事録署名人	